

豆まきを楽しみました



今年の豆まきは、124年ぶりの2月2日になりました。地球が太陽を1周する時間は365日ぴったりではなく、6時間弱長いため、毎年少しずつ地球の位置がずれていき、立春も2月3日になったり2日になったりするんだそうです。今年は皆さんが「コロナ外、福は内！」と言って豆まきをしていたのが印象に残りました。何故か、「社長さんが鬼をやってるじゃん！」「鬼が涙を流してるじゃん、うれし涙かなあ？痛くて泣いてるのかなあ？」といろんな話をご利用者様から出てきて、楽しい豆まきを行うことが出来ました。福に恵まれた1年になりますように！ 来年も楽しみですね。

s.s
みらい
新聞

第90号
2021年2月
発行責任者
新津 尚

老老介護・認認介護が増てる

現在の介護で問題になるのが、老老介護・認認介護です。増加が続くとみられる老老介護ですが、介護者が1人ですべての介護を担おうとするのは、年齢のことを考えても無理があると言えます。疲労が溜まっていき、心身ともに限界に達してしまうと、介護虐待や共倒れといった最悪の事態を招きかねません。さらに老老介護だと、介護者の側も何らかの持病を抱えていることが多いもの。心身への負担が過度に蓄積しないように、そして介護者自身の持病を悪化させることがないように、介護サービスをうまく活用する必要があります。

介護保険事業所が把握している
介護保険利用者の介護状況まとめ



認知症による徘徊の対応

認知症の家族を介護するなかで、一人で歩きまわったり迷ったりしまう「徘徊」に悩んでいる方は特に多いようです。家の外に出ていってしまうこともあるため、周囲の方に迷惑をかけてしまうことに心を痛める人も少なくありません。ただ、徘徊をしている本人は「どこにいるのかわからない」といった目的が分からないからこそ、徘徊をしてしまうのです。本人にとっては外出してしまう理由があつての行動なのです。その理由を聞き出し、耳を傾けてあげることが大切です。それにより徘徊の原因になっている不安を取り除くことができるかもしれません。

徘徊が起こってからの対策としては、高齢者向けに首からぶらさげるスマートフォンやキーホルダー型のGPS機器も用意されています。本人が立ち寄りそうなお店や駅、交番などにも同様のことを伝えておくことで声をかけてもらいやすくなります。情報を介護保険事業者や医療機関、公的機関、地域の商店会などに共有すると早期発見に力を貸してもらえます。